

1 単元によせる授業者の思い

生徒は明るくまじめで、意欲的に授業に取り組むことができる。男女の仲がよく、ペア学習やグループ学習によるコミュニケーション活動に協力して取り組むことができる。しかし、英語を得意とする生徒は少なく、書く活動においては苦手意識をもっている生徒が多い。

本単元は、防災というテーマを扱っている。多くの災害に直面する日本に住んでいることを意識させ、自己を守り、同時に他者を守るという意識を高めさせることができる教材であると考えている。

「町中での手助け」では、既習事項や新たな申し出の仕方を用いて、場面や状況、相手を意識した申し出になるように考えを深めさせたい。さらに自分たちの表現と友達の表現を比較し、より相手に伝わりやすい申し出になるためにはどうしたらよいかを考えさせ、やり取りを修正し、進化させた申し出になるように取り組ませたい。

様子を録画し、教師のタブレットに共有ソフトで送らせた。また、英語が不得意な生徒の手助けになるように、申し出の表現プリントを配付した。



町中での手助け申し出る

「助ける側」の表現	「助けってもらう側」の表現
Can I help you? (お手伝いしましょうか。)	Please help me.
Shall I take you there? (そこにお連れしましょうか。)	Please tell me the way to the library.
Would you like me to carry your bag?	Can you help me? (手伝ってくださいか。)
(あなたのカバンをお持ちしましょうか。)	Could you help me buy a ticket?
Is there anything I can do for you?	(切符を買うのを手伝ってくださいませんか。)
(何かできることはありますか。)	Could you please tell me how to get to Nihamatsu Hospital?
Where would you like to go? (どこへ行きたいですか。)	May I ask you a favor? (お願いしてもよいですか。)

2 授業の実際

視点 I

既習の学びと関連づけて、相手を意識したコミュニケーションの工夫

① ALTの困っているジェスチャーを見て、どんな言葉かけをするか生徒に考えさせた。既習事項がいろいろと出された。それらの表現を用いることで、場面や状況に合った言葉かけができることを確認した。また、本文を用いて新しい表現にも触れさせ、どの表現を用いれば良いか、相手の置かれている状況に合わせて、意識して伝える必要があることも確認した。Try 1では、3人のグループを作り、班でストーリーを考えさせ、その

② 生徒から教師のタブレットに送られてきた動画を、全員で共有した。他の発表と自分たちの発表とを比較させると「やり取りをしている場に相手がいると思って話しかけるとよい」「もっとゆっくり、はっきりと話した方がよい」などの協働的な学びを通しての気づきがあった。Try 2では、より相手の気持ちに寄り添った表現になるように活動させた。2回目の動画を全体で共有したときには、伝えるということはただ話すだけではなく、相手の立場を考えて、どのような言葉かけをすればよいか、適切な表現は何かを考える必要があることを全体で確認した。例えば“Shall I ~?”の

表現と同じ意味の“Do you want me to ~?” 「～してほしいですか。」を、目上の方に伝えるとしたら，“Would you like me to ~?”の方が丁寧であって、相手に合わせて適切な表現であることなどを考えさせた。



視点Ⅱ

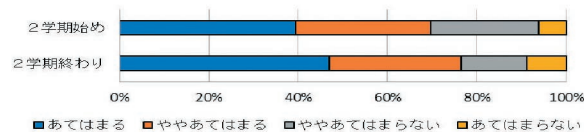
学びの連続性につながる振り返りの工夫

- ① 「振り返りシート」には振り返りの視点を提示し、その中から選んで振り返りをさせた。継続して「振り返り」をしていくことで、この単元で何を学んできたのかを意識化するとともに、「振り返り」を前時と本時の橋渡しとして活用することで、本時の授業にスムーズに入ることができた。
- ② 友達の「振り返り」を聞くことで、この時間に学習したことを別の視点で振り返ることができ、自分が何を学んだのかを見つめ直すきっかけとなったと思われる。そこから、次に学びたいことは何か等、疑問点や課題が見つかるのではないかと考えられる。そしてそれが、さらに次時の学習への意欲付けに繋がると思われる。

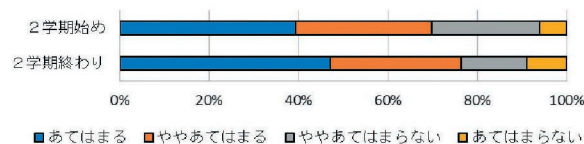


3 子どもの変容

ペアやグループ活動では積極的に意見を出し、課題の解決に努めている。



めあて（課題）や問題などから、さらに自分の疑問や質問を思い浮かべることがある。



〈考察〉

ペアやグループ活動に積極的に取り組んでいる生徒が増えてきた。めあてや問題などから自分の疑問や質問が出るということは、興味・関心をもって課題に取り組んでいると考えられる。

4 研究のまとめ（○成果●課題）

【視点Ⅰ】

- 互いの動画を見ることで、自分の表現と他者の表現を比較することができ、他者のよい表現を自分の表現に取り入れたり、改善したりすることで表現力が高まったと考えられる。
- **Try 1**の動画を見て、よかった点を共有したが、それを板書せずに口頭での確認のみとってしまった。生徒の思考に寄り添った構造的な板書をすれば、さらに**Try 2**の活動が表現力豊かなものとなったと思われる。

【視点Ⅱ】

- 生徒が、本時で「何がわかったのか（知識・技能）」、「どんな学びがあったのか（思考力・判断力・表現力等）」、「次に同じような活動をする際はどうしたいのか（主体的に学習に取り組む態度）」等の観点に照らして振り返ることで、次の学習への意欲付けに繋がったものと考えられる。
- 代表生徒の「振り返り」を聞いて参考にした結果、自分の考えを修正、進化、発展させたと考えられる。

実際の指導案はこちらへ▶

